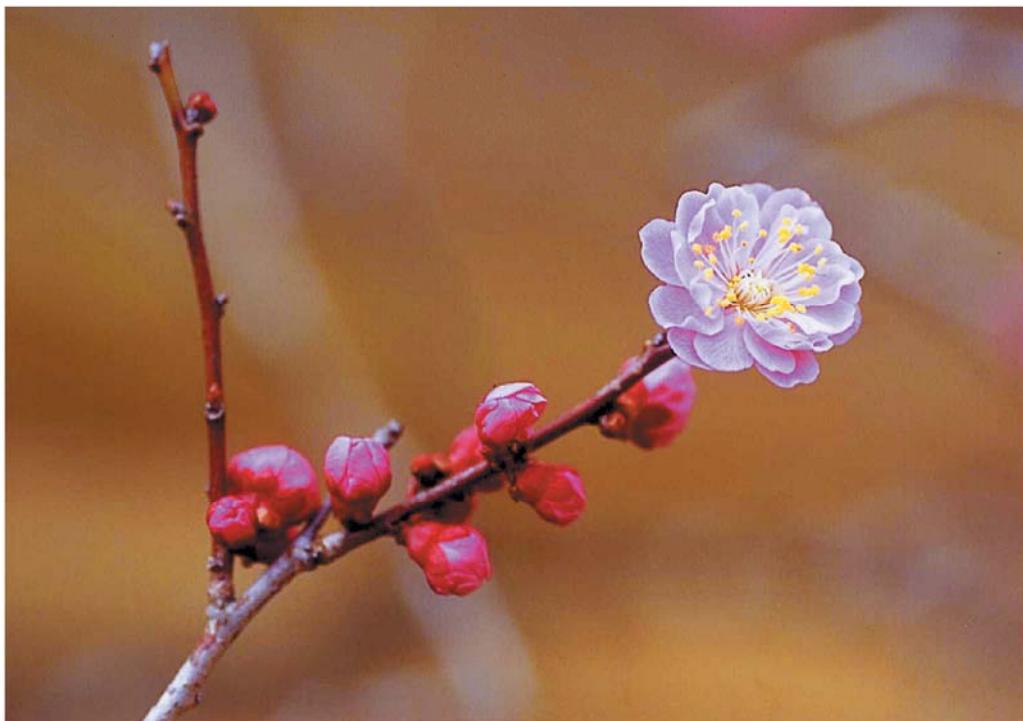


# 西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第484号 平成25年4月



『八重の梅』 坂本 保己

## 目

## 次

	頁		頁
1) 感染症だより	西多摩保健所 … 2	9) 学術講演会の予定	学術部 … 17
2) 専門医に学ぶ	馬場由佳里 … 3	10) 東京都医師会雑誌 （銷夏隨想集）原稿募集	広報部 … 17
3) 都道府県紹介	井上勇之助 … 6	11) 一般社団法人移行に伴う説明会	広報部 … 18
4) 第11回西多摩医師会臨床報告会	学術部 … 7	12) 理事会報告	広報部 … 18
5) 広報だより 花粉症	近藤之暢 … 12	13) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 22
6) 連載企画 東北道でどうでしょう？	鈴木寿和 … 13	14) あとがき	鹿児島武志 … 24
7) 第13回在宅医療連絡会報告	川口卓治 … 14	15) 表紙のことば	坂本保己 … 25
8) 西多摩地域糖尿病医療連携検討会 からのメッセージ	野本正嗣 … 15	16) お知らせ	事務局 … 25

## 感染症だより

### 〈全数報告〉

第7週(2.11-2.17)から第10週(3.4-3.10)の間に、管内医療機関より以下の報告がありました。

(二類感染症) 結核 5件(肺結核 3件、結核性リンパ節炎 2件)

(三類感染症) なし

(四類感染症) なし

(五類感染症) 風しん 1件(20代女性)

### 〈管内の定点からの報告〉

	7週 2.11～2.17	8週 2.18～2.24	9週 2.25～3.3	10週 3.4～3.10
RSウイルス感染症	3	3	1	
インフルエンザ	127	89	70	86
咽頭結膜熱	3	2	3	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	9	5	13
感染性胃腸炎	40	34	48	76
水痘	2	19	3	10
手足口病				
伝染性紅斑		1		
突発性発しん	2	3	2	2
百日咳				
ヘルパンギーナ		1	1	1
流行性耳下腺炎	2	1	2	
不明発疹症				
MCLS				
急性出血性結膜炎				
流行性角結膜炎				
合 計	180	162	135	189

基幹定点報告対象疾病〈細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く)〉

マイコプラズマ肺炎 1件(5～9歳 1件)、細菌性髄膜炎 1件(5～9歳 1件)

### 〈コメント〉(第11週は東京都のWeb版感染症発生動向のデータです。)

#### ① 風しん流行が継続しています。

風しんは、平成20年から診断した場合には全数届出が必要な疾患であり、都内の風しんの報告件数は、平成20年は46件、21年は19件、22年は15件、23年は35件でした。しかし平成24年は672件と急増し、25年第1週から11週の時点で907件です。西多摩保健所管内では平成24年第1週から平成25年第10週までに患者の報告は2件です。

東京都はプレス発表を行い、昨年6月14日に続き、本年2月7日に注意を喚起しています。昨年からの傾向として、患者は20代から40代の男性が多く、女性では20代の割合が高くなっています。また、患者の多くは予防接種歴なししか確認できない方です。

風しんは、主に咳やくしゃみにより感染します。症状は2～3週間の潜伏期間をおいて、発熱、発疹、リンパ節腫脹などが出現します。基本的には予後良好ですが、風しんに対する免疫を持たない妊娠が妊娠初期に感染すると、先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。特にこれから妊娠の可能性のある方やそのご家族等で風しんにかかったことのない場合には予防接種をご検討ください。

風しんの届出基準は、検査診断例(臨床症状の1つ以上を満たし、かつ「抗体の検出」、「分離・同定による病原体の検出」、「検体から直接のPCR法による病原体の遺伝子の検出」のいずれかを満たすもの)、もしくは臨床診断例(「全身性の小紅斑や紅色丘疹」、「発熱」、「リンパ節腫脹」のすべてを満たすもの)ですが、確定診断には検査診断が活用されます。

#### ② インフルエンザの報告は減少しています。

都内の平成25年第4週の定点当たり報告数は41.3人と、流行警報の基準を超えたため、1月31日に都は流行警報を発表しました。その後、全国、都内、西多摩保健所管内とも定点当たり報告数は第4週をピークに低下してきており、第10週が都全体は3.55、管内は6.14、第11週が都内は2.55、管内は1.36となっています。

#### ③ その他

感染性胃腸炎とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、都内、管内とも、定点当たり報告数は過去5年間と同様の傾向ですが、都内、管内とも第8週以降は増加傾向にあります。

# 専門医に学ぶ 第99回

## 問題

【症例】生後 5 か月 女児

【初診】平成 24 年 3 月 29 日

【主訴】全身にわたるジクジクした発疹

【既往歴】乳児湿疹にて近医皮膚科通院中

【現病歴】平成 24 年 3 月 22 日に右耳介後部のただれに母親が気づく。

3 月 23 日腹部にいつもの乳児湿疹とは異なる皮疹が拡大。かかりつけの皮膚科を受診し乳児湿疹の悪化と診断。ステロイド軟膏を処方され外用するも 3 月 24 日には皮疹がさらに拡大し小水疱を形成す。3 月 26 日には水疱が拡大し破裂。糜爛を示すようになり近医受診して水瘡と診断され抗ウイルス剤（ゾビラックス）の内服を処方される。しかし皮疹がさらに悪化拡大する為 3 月 28 日同医院で抗生素（ケフレックス）の処方に変更される。

咳嗽(+) 発熱 37 度台、機嫌は良い。内服薬は良く飲めている。母乳の飲みはかわらず。

【現症】体温：37.3 度、体重 7.46kg、活気良い、機嫌良くニコニコ。

胸部：肺胞呼吸音清 腹部：軟 口腔内：異常なし

皮膚所見：顔面、頭部、両耳には湿疹性変化がありジクジクした浸出液を認める。

前胸部～背部にかけて糜爛、発赤、水疱、痂瘻形成、浸出液 (+)、手指も一部水疱あり。

問題 1. 診断は何でしょう？

問題 2. 鑑別すべき疾患には何があるでしょう？

問題 3. 治療薬の選択は？

問題 4. スキンケア指導は？

## 解答と解説

青梅市立総合病院 皮膚科 馬場 由佳理

【問題 1 の解答】黄色ブドウ球菌感染による水疱性伝染性膿瘻疹

【細菌培養】浸出液培養結果：Staphylococcus aureus (MSSA) 多数

【問題 1 の解説】伝染性膿瘻疹の原因には黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌などが多く、一般に「とびひ」と称される。臨床像としては、2 型に分かれ水疱形成のみられる水疱性膿瘻疹と、痂瘻の厚く付着した痂瘻性膿瘻疹とがある。また近縁疾患として膿瘻疹性湿疹がある。

〈水疱性膿痂疹〉乳幼児・小児に好発し、主として黄色ブドウ球菌による。黄色ブドウ球菌の產生する表皮剥脱性毒素によって水疱が產生される。乳幼児および小児に好発し、初夏から真夏にかけて多く発症する。発症のきっかけは虫刺や汗疹の部位を搔把する事などによる事が多く、搔把した糜爛や湿潤局面の周りに小水疱が形成され、水疱は破れやすく、その浸出液によってまたその周囲へと拡大していく。水疱性膿痂疹は年齢が低いほど重症化しやすく、本症例のように多発性で広範囲の症例では時に SSSS (staphylococcal scalded skin syndrome) に進展するリスクも高くなる。繰り返し発症する小児もいるが、年齢が高くなるに従って症状は軽くなり徐々に再発しなくなる。低年齢の兄弟間の感染は良く経験するが、親に感染することは比較的稀である。成人発症例はむしろ糖尿病や腎障害、免疫疾患などを背景に持つ患者や、原因菌が MRSA である場合が多い。今回の症例は MSSA による感染であったが、最近では MRSA による膿痂疹が大変増えてきている。よって初診時に必ず細菌培養と薬剤感受性テストを実施すべきである。水疱性のものは、通常水疱形成後は膿痂化したり糜爛となるが、一部には急速に痂瘍化し痂瘍性膿痂疹との判断難しい。また本症例のように発症初期には水疱が極めて小さくアトピー性皮膚炎の悪化や水痘との違いがわかりにくく、初期には鑑別診断が困難であったのだろうと推測できる。

〈痂瘍性膿痂疹〉 A 群  $\beta$  溶血性化膿性連鎖球菌が原因で、比較的急速に発症する。季節にあまり関係なく、小児より成人にみられることが多い。良く運動部の選手の擦過傷に続発したり、さらにアトピー性皮膚炎に合併する例が多く認められる。比較的炎症が強く、発赤・腫脹が顕著で疼痛を伴い、小膿疱が混在する例が多い。厚い痂瘍を伴い、発熱、リンパ節腫脹、時に咽頭痛などの全身症状を呈する事が多い。溶連菌感染の場合は白血球数の増加・核の左方移動・CRP 上昇、ASO、ASK が上昇がないかチェックし、感染後に糸球体腎炎を引き起こすこともあるので腎機能検査や尿検査も定期的に行って注意深く観察しておく事が重要である。

**【問題 2 の解答】**アトピー性皮膚炎の急性増悪、カポジ水痘様発疹症を含むヘルペス感染症、貨幣状湿疹、接触性皮膚炎等

**【問題 3 の解答】**治療は基本内服が第一選択である。ペニシリン系またはセフェム系抗生物質の内服または全身症状など症状が高度な場合は点滴静注で全身投与をする。そして細菌検査の結果や治療の効果によって薬剤を適宜変更する事が基本である。培養で MRSA が原因と疑われた時はホスミシンまたはミノマイシンを使用するが、ただし小児へのミノマシンの投与は歯牙の黄染やエナメル質形成不全を起こすこともあるので慎重に投与を行うべきである。また搔痒感が強い時はかゆみ止めの内服やステロイド含有の抗生物質軟膏や亜鉛華軟膏を適宜併用する。

**【問題 3 の解説】**昨今では伝染性膿痂疹の原因が MRSA である場合が全体の 3 割を超えているという結果が出ている。これはメチシリンに対する耐性は皮膚感染症で頻用されてきた経口のセフェム系薬と外用薬のゲンタシン頻用により耐性化が進んでしまった結果である。特にゲンタシンでは、MSSA さえ約 6 割が耐性を持っていると言われている。

こうした状況を前提に考えると、どの抗生物質治療薬の選択が有効かはとても重要である。対策として外用治療はゲンタシンを使用せず、アクアチムやテラマイシンなどを選択するのも良いであろう。どちらも MRSA に感受性が高く、これらをローテーションさせることが耐性化の予防につながると考える。内服薬については、(1) ペニシリン系・セフェム系 (2) ホスミ

シン（3）ミノマイシンの順に、4～5日で効果が出なければ変更を検討してみる必要がある。いずれにせよ伝染性膿瘍疹を治療する過程でゲンタシンが効果を示さなくなっている事は、念頭に入れておくべきであろう。

**【問題4の解答】**こまめに手洗いを行い手の爪を短く切っておく。湯船への入浴を避けシャワー浴とし、患部は石鹼の泡で洗ったのち、よく洗い流す。黄色ブドウ球菌はバイオフィルムに包まれていて消毒は無効なので基本的には必要ない。兄弟間の接触が無いようにバスタオル等も別々にして感染を予防する。肌の乾燥が皮膚のバリアを壊し皮疹拡大のリスクが高まるので保湿をしっかりとすることがとても重要である。

### 【最後に】

今回の症例は水疱性伝染性膿瘍疹で、全身症状も乏しく元気であったが、前医にて診断に苦慮し、病変がかなり広範囲に急速に拡大したインパクトのある稀な症例であった為報告した。伝染性膿瘍疹は4月頃から外来で頻繁に遭遇することの多い疾患で、2、3日で急激に皮疹の形が変化する疾患だけに、発症初期には診断に迷ったり、またはMRSA感染等で殊の外治療に難渋する症例や、治療のタイミングが遅れSSSSに移行する症例も認める為発症初期から充分注意を払いたい。

### 【臨床写真】 Fig.1 本症例 小児例の水疱性伝染性膿瘍疹 (MSSA 感染)

発症8日目の胸腹部臨床像。水疱だった部分がすでに潰れて水疱蓋が乾燥し痂瘍化してきている。

### Fig.2 別の小児例 痢瘍性伝染性膿瘍疹 (MRSA 感染)

2歳男児 腰部臨床像 アトピー体質あり、海水浴後皮疹が悪化



Fig.1



Fig.2

# 都道府県紹介



## 第9回 青梅市

### 古い青梅を見る（その1）

青梅市 井上医院 井上 勇之助

“青梅の歴史を語る”では年寄りくさいので“見る”ことにしました。

私が幼少時より青梅に住み、そこで自分が身近に見聞きした事柄にこだわって、勝手な思い込みで、話を進めていこうと思います。広報とはだいぶ違った話になるかもしれません。時代とともに変りゆく人々の“移動の手段”から話を進めてみましょう。

青梅街道は江戸城築城に必要な石灰石を運ぶために作られたといわれている。江戸の町の発展に伴い、青梅宿は、山で切り出される木材や炭の集積場及びその取引の町として、又それらを江戸の町まで運ぶ人馬でごったがえしていたことでしょう。

その頃、この街道を走りつづけていた男がいる。夕に青梅を出て、江戸で一仕事をして、朝にはもう青梅にいたという韋駄天男、義賊として名高い裏宿七平だ。青梅マラソンのルーツのような男である。

西分の交差点あたりで処刑され、（子供たちは人が殺される場所として怖がった）宗建寺に墓があるという。

この時代に、青梅宿から甲府までの道をたどるならば、机竜之介だ。日本一の長編小説である中里介山の大菩薩峠（学生時代読み始めたが）の主人公である。幕末の青梅の村々や御岳神社での奉納試合から始まる。ここで御岳山について少し触れてみたいと思う。青梅宿よりはるかに古い歴史を持つと思われる。奈良時代に修驗道の山として開かれ、京の公家が参拝した古文書が残っているそうで

ある。また宝物館には鎌倉武士が奉納した国宝の鎧がある。江戸時代には農薬神となり関東一円の農民の厚い信仰を受けていた。神社、仏閣参拝への旅は比較的の自由であり、講を組んで出かけたようである。青梅宿の坂上旅館（萩森先生の奥様の御実家）に宿泊したという古記録が神社に残っている。（室町時代からの御岳神社御師馬場様より）

次は青梅線だ。青梅宿は青梅町となったが、近代日本の復興にはかかせないセメントの原料となる石灰石が多量に必要だったのであろう。しかし中継基地としての役割はなくなってしまっている。だが明治時代もだいぶ下がつてくると、青梅街道と青梅線という交通手段に恵まれたためか、地場産業として織物業が盛んになってきた。当時の繁栄を今日に伝える建物があった。（今は壊されて建売住宅になってしまったが）私の家の近くに“吉紡”という織物工場だ。富岡製糸と同じような総赤レンガ作りの大きな工場で、青梅で唯一米軍の機銃掃射を受け、戦後“女工哀史”を画いた映画のロケ地にもなった。しかし戦争の悪化によりどの工場も閉鎖の憂き目を見た。

戦後の混乱期をすぎ、朝鮮戦争が勃発した頃より日本国中が空前の好景気となり、再び青梅中で織物の音が鳴り響き“がちゃ万時代”が到来した。旧来の工場群をはるかにしのぐ中小の工場が村中に乱立し、早朝とともに大小の機屋さんから一声に“がちゃ、がちゃ”が始まり、夕暮れまで続く。空調のない時代

であり窓は全開、大きな音こそ富の象徴だ。  
“がちゃ”の一音で一万円が儲かるという、  
町じゅうが浮かれていた。

周辺の村々からの人達ではとても足りず、  
東北地方より女工として多くの若い女性達が  
集められてきた。

村々の間には路線バスが整備され、すべて  
のバスは青梅駅に集まつた。青梅周辺の町で  
ある福生、五日市、八王子、飯能と青梅駅が  
結ばれ、ついには青梅街道をさかのぼつて荻

窓まで伸びていった。

青梅街道沿いには老舗の洋品店や呉服店が  
ならび、仲通やキネマ通りには飲食店も加  
わって、まさに青梅の“仲見世”通りだ。三  
業通りには三業組合の見番があり、50人を  
超える芸者衆がいたといわれている。

大映とキネマの2つの映画館には人々が殺  
到するかのごとく混雑し、“笛吹き童子”を  
見るために青梅街道まで並んでいた。

## 第11回西多摩医師会臨床報告会について

平成25年2月19日(火)公立福生病院多目的ホールにて開催いたしました。公立3病院より各1演題づつ、青梅今井病院より1演題、野本医院より1演題発表をしていただき、計5演題の発表がありました。参加者は総勢36人で活発な意見交換がされました。

詳細につきましては會澤学術委員より報告いたします。

(学術部担当 小林 康弘)

### 第11回西多摩医師会臨床報告会の報告 学術委員 會澤 義之

会員が日常診療で経験した貴重な症例・体験・研究の発表が、今年も平成25年2月19日19時半～21時半に公立福生病院多目的ホールで5題ありましたので、報告致します。

当日は昼前から雪模様となり、やや天候が心配されましたが、午後には雨に変わり夜には上がり、学術部長小林康弘先生の司会と横田西多摩医師会長のご挨拶で定刻に始まりました。

#### 1. 「多彩な症状を呈した新生児消化管アレルギーの2症例」

公立福生病院小児科 発表者 羽田伊知郎先生

新生児・乳児消化管アレルギーは2011年に診断治療方針が提示されて徐々に疾患概念が定着しつつある。主に牛乳蛋白が原因で嘔吐・下血などを呈する疾患の総称です。1例目は日齢2に高度の水様性下痢で入院し、その後血便（便中に好中球多数）体重減少あり、発熱と炎症マーカーの上昇を認めた。ミルクアレルギーと考えて高度加水分解乳投与、その後アミノ酸乳としたが、最終的にNICUでの中心静脈栄養管理で退院。2例目は日齢6で重度の早発性黄疸治療中に胆汁性嘔吐で発症してX線では胆管ガス消失、水様性下痢には好中球を多数認めた。ABO不適合も考えられる症例であったが最終的にこれは関連性は認められませんでした。高度加水分解乳（M1ミルク）で治療後、その後母乳も加えての治療で10数日で退院。この疾患の10%は敗血症などに重症化するので、診断に至らなくても疑いがあった時点で早期アミノ酸乳など治療乳に変更が望ましいそうです。

## 2. 「離床動作の自立を目指して」 青梅今井病院 発表者 土方幸樹先生

療養病床に長期入院になると、次第に本人の意欲も低下し依頼心が強くなり今まで出来ていた事にも介助を求めるようになって ADL の低下をきたす例をしばしば認めるそうです。そこで、介護方法・介護のあり方を理学療法士に頼らずに介護士で行う事を検討して、良い結果が得られた 3 例をスライドで実際改善している写真も提示して報告されました。1 例目は 75 歳 DM を有す男性で脳梗塞後遺症で左片麻痺・呂律障害があり、入院後は介助で立位・車いす乗車を行っていた case です。指導後右健側で電動ベッドでギヤッチャップをしてからベッド柵につかみ座位となり、近くにある車いすを引き寄せて自力で乗車可となりました。2 例目は 78 歳女性で脳梗塞後遺症・SLE・廃用症候群で意欲低下が見られていた case です。指導後は両手でベッド柵をつかみ座位になり、やはり近くにある車いすを引き寄せて自力で乗車可となりました。3 例目は慢性心不全・前縫隔腫瘍・変形性脊椎症のある 89 歳女性。指導後は両手を使用して座位まで可能となり、座位は介助で座り直しとしたり半介助で車いす乗車可となりました。考察では介入をしがり難く、いずれの case も意欲を出すよう皆で声かけをしてコミュニケーションを大切にして、出来た動作を皆でほめて意欲の向上を図って一日 3 回食事の際には前述のようにほぼ自立から半介助にまで改善をしたそうです。

## 3. 症例報告～西多摩地域におけるツツガムシ病の現状～

### 青梅市立総合病院 リウマチ・膠原病科 発表者 稲垣雅子先生

有名な疾患である一方、診断に至らず重症化する例が散見されるツツガムシ病を本年度も 2 例経験した報告です。症例 1 は普段より畠仕事をしている 71 歳女性で、5 月に発熱、嘔気、皮疹、倦怠感で発症して近医受診、食物アレルギーの疑いでステロイド投与までして加療されるも改善無く、RoomAir で SpO<sub>2</sub> は 85 ~ 90% 発熱 39.1°C で右肺葉間胸水も認める DIC の状態で当科受診。全身に米粒大の紅斑が散在し、通常自覚症状の無い刺し口を右肩に認め、ツツガムシ病と診断。ミノサイクリン投与で軽快する。2 例目は庭の草むしりをした 1 週間後に発熱と倦怠感で近医受診した 76 歳女性。感冒薬で軽快せず、頭痛・嘔吐・水様便・倦怠感の為に歩行困難となり紹介受診。全身の皮疹と右下腿の刺し口を認めツツガムシ病と診断。やはりミノサイクリン投与で軽快。西多摩保健所への届け出は過去 6 年で 20 例で月別では 5・6・11・12 月で発生地域にも偏りがある。β ラクタム系は無効でミノサイクリン投与を要するツツガムシ病の特徴を理解して、早期診断・治療が進む事を期待したいと結んでいます。

## 4. 混合性結合組織病（MCTD）の経過中に成人発症 Still 病を合併した 1 例

### 公立阿伎留医療センター内科 リウマチ科 発表者 砂岡宏和先生

症例は 69 歳女性。平成 19 年頃から Raynaud 症状が出現、抗 RNP 抗体陽性などから MCTD として経過観察中に平成 24 年 2 月 39°C 台の発熱が出現。近医での抗生素治療に反応せず紹介受診。初診時体幹部に 1 ~ 3 mm のリウマトイド疹（サーモンピンク疹）を認めるもリンパ節は触知せず、血液検査では肝機能障害と CRP 10.4 mg/dl・血清フェリチン 1303 mg/dl と高値であった。入院精査で他に熱源は明らかでなく、成人発症 Still 病（AOSD）の診断で経口プレドニゾロン 40 mg/ 日の投与を開始、解熱と異常データの改善が認められ漸減の上退院、現在 4 mg/ 日投与となっている。いずれ 3 mg/ 日として隔日投与後 off の予定との事。考察及び質問への回答からまとめると、本例は MCTD と AOSD の重複症候群と考えられる。重複症候群の

多くは自己免疫疾患同士の組み合わせが一般的であるが、AOSD では特異的自己抗体は確認されておらず、フェリチンが高値であった事から AOSD の特徴で MCTD の急性憎悪とは考えにくく比較的新しい組み合わせと思われる。また、自己免疫疾患の関節リウマチと AOSD の異同については結論は得られていない。本例では当初陰性であったリウマトイド因子が AOSD 発症の 1 年前から持続的に陽転していて、経過の中で徐々に弱陽性となっているので、AOSD 発症との関連で興味深いそうです。

## 5. 西多摩医師会館での糖尿病教室を受講した当院患者 14 例の検討

発表者 西多摩地域糖尿病医療連携検討会委員 野本医院 野本正嗣先生

糖尿病診療において大切なのは食事療法・運動療法・正しい糖尿病教育、そして高血圧・脂質代謝異常を含めた集学的治療です。西多摩医師会では昨年より医師会館で第 4 木曜午後 2 時～3 時に上記検討会が主催する「糖尿病患者さんのための糖尿病教室」を開催しています。6 月の第 1 回から 11 月の第 6 回まで受講した当院 14 名について検討されてありました。

(個別の投薬内容と折れ線グラフを用いての経過表が配布されています)

年齢は 60～78 歳（平均 66.9 歳、BMI 29.7）、男性 3 名女性 11 名で、全 6 回出席 1 名、5 回が 4 名、4 回が 5 名、3 回が 1 名、2 回が 1 名、1 回が 2 名。受講前後で明らかな体重減少が 8 名（7 名は 4 回以上受講、残り 1 名は 3 回）増加が 2 名、不变が 4 名で、増加と不变の 6 名中 3 名が受講回数が 2 回以下でした。HbA1c は明らかな低下が 9 名（全員 4 回以上受講）増加が 4 名（全員受講回数 3 回以下）、不变が 1 名でした。教室へ参加した受講者の殆どが「大変参考になった、勉強になった」と話し、体重減少・HbA1c 改善は当院にとっても大いに有益でした。自院で糖尿病の十分な食事指導ができない場合、医師会館で行う「管理栄養士による栄養指導」を受けることは大変有意義ですが、6 回のうち 4 回以上受講で体重減少 87%、HbA1c 改善 100% があるので、継続的に受講する事が重要と考えられました。平成 25 年度の教室では、医師会館のみに留まらず西多摩の各地域に場を設けて内容に糖尿病の知識・合併症・運動療法についての講義を加え、CKD や骨粗鬆症も含めての集団栄養指導の他に個別指導の枠を設けてより充実したカリキュラムを組んでいます。（別表が配布されました）先生方の医療機関等で、糖尿病診療についての十分な指導（食事・運動等）が行えない糖尿病患者さんには、医師会館での糖尿病教室への参加を勧めて頂きますようお願い申し上げます、と結ばれました。

各発表に対して西成田先生、松山先生、武者先生、江本先生から質問や活発な討論があり、私會澤も演題 2・4・5 について質問をさせていただき各々 20 分程度では足りないくらいの報告会となりました。

## 1. 多彩な症状を呈した新生児消化管アレルギーの 2 症例

公立福生病院

<sup>1</sup>羽田伊知郎、<sup>1</sup>岡本さつき、<sup>1</sup>武田良淳

<sup>1</sup>遠海重裕、<sup>1</sup>五月女友美子、<sup>1</sup>松山健

<sup>2</sup>小高哲郎、<sup>3</sup>工藤孝広、<sup>3</sup>村越孝次

<sup>1</sup> 公立福生病院 小児科

<sup>2</sup> 公立福生病院 外科

<sup>3</sup> 小児総合医療センター 消化器科

新生児・乳児消化管アレルギーは、主に牛乳蛋白が原因となり、嘔吐・下血などの消化器症状を呈する疾患の総称である。2011年新生児・乳児消化管アレルギー診断治療指針が新生児・乳児アレルギー疾患研究会より提示され、疾患概念として徐々に定着し、ある程度の治療指針が確立されるようになったが、未だ診断には難渋する場合がある。全体の8割は嘔吐・下痢・血便などの消化器症状を呈する一方で、2割は体重減少、不活発などの非特異的症状のみであり、活気不良のみの場合や、無呼吸発作、低体温、メトヘモグロビン血症、口腔潰瘍などの報告がある。消化器症状以外にも多彩な症状を呈する疾患であり、そこに新生児期の生理的変化に伴う症状や、新生児特有の鑑別疾患が加わると、診断に苦慮することもある。

今回、日齢2に高度下痢、体重減少で発症し、発熱と炎症マーカーの上昇を認めた女児と、日齢6で重度の早発性黄疸治療中に胆汁性嘔吐で発症した男児の2症例を経験した。初期対応の手順として、疑うべき症状がある場合は診断に関わらず早期に治療乳に変更することが重要と思われた。

## 2. 離床動作の自立を目指して

(医社) 葵会 青梅今井病院

土方幸樹、石田幸子、福泉三恵子

岩下明子、阿部恵子、戸口章江

上田源次郎、武者廣隆

当院3階病棟は療養病床60床で、寝たきりの患者様が3分の2を占め、残りの3分の1の方はある程度ADLが維持され、車椅子での生活を送っています。

長期入院になると、次第に本人の意欲も低下し、依頼心が強くなり今まで出来ていた事についても介助を求める事により、ADLの低下をきたす例をしばしば認めます。

そこで今回私共で経験した症例の中で、介護方法・介護のあり方について検討し実践した所、3例についてよい結果が得られましたので報告いたします。

## 3. 症例報告～西多摩地域におけるツツガムシ病の現状～

青梅市立総合病院

リウマチ・膠原病科

稻垣雅子、佐々木広和、長坂憲治

皮膚科

村山喬之、馬場由佳里

ツツガムシ病は、有名な疾患である一方、診断に至らず重篤化する例が散見される。リウマチ・膠原病科でも毎年入院症例を経験し、本年度も2例経験したので報告する。

【症例1】71歳、女性。普段より畠仕事をしていた。5月に発熱、嘔気、皮疹、倦怠感で近医受診、食物アレルギーの疑いで加療されたが改善せず、当科受診。全身の皮疹と右肩の刺し口よりツツガムシ病と診断。DICの状態であったが、ミノサイクリン投与で軽快。

【症例2】76歳、女性。庭の草むしりをした1週間後、発熱、倦怠感で近医受診。感冒薬等で軽快せず、倦怠感のため歩行困難となり当院紹介。全身の皮疹と右下腿に刺し口を認め、ツツガ

ムシ病と診断。ミノサイクリン投与で軽快。

西多摩保健所へ届出のあったツツガムシ病は過去6年間で20例(4例は当科からの届出)であった。月別の届出は5月1例、6月1例、11月11例、12月7例であり好発時期が存在した。また、発生地域にも偏りがみられた。西多摩地域のツツガムシ病の特徴を理解することで、本疾患の早期診断・早期治療がすすむことを期待したい。

#### 4. 混合性結合組織病（MCTD）の経過中に成人発症 Still 病を合併した1例

公立阿伎留医療センター

内科 リウマチ科 砂岡宏和、西成田進、荒川泰行

症例：69歳、女性。平成19年頃からRaynaud症候群が出現、抗RNP抗体陽性などからMCTDとして経過観察していた。平成24年2月、39℃台の発熱が出現。近医での抗生素治療に反応せず、当院へ紹介された。初診時、体幹部にリウマトイド疹を認めた。リンパ節は触知されなかった。血液検査上、肝機能障害とともにCRP 10.4mg/dl、血清フェリチン 1303mg/dlと高値を示していた。入院精査で他の熱源は明らかでなく、AOSDの診断の下に経口プレドニゾロン40mg/日の投与を開始。投与後、解熱と異常データの改善が認められ、漸減の上退院となった。

考察：本例はMCTDとAOSDの重複症候群と考えられる。重複症候群の多くは自己免疫疾患同士の組み合わせが一般的であるが、AOSDでは特異的自己抗体は確認されておらず、比較的珍しい組み合わせであると思われる。また、自己免疫疾患の関節リウマチとAOSDの異同については結論は得られていない。本例では、当初陰性であったリウマトイド因子が、経過の中で徐々に弱陽性となっており、AOSD発症との関連で興味深い。

#### 5. 西多摩医師会館での糖尿病教室を受講した当院患者14例の検討

西多摩地域糖尿病医療連携検討会委員

野本医院 野本正嗣

糖尿病診療において大切な事は食事療法・運動療法・正しい糖尿病教育、そして高血圧・脂質異常症を含めた集学的治療です。

西多摩医師会では、毎月第4木曜日の午後2時から3時まで、西多摩地域糖尿病医療連携検討会が主催する「糖尿病患者さんのための糖尿病教室」を医師会館で開催しています。

この糖尿病教室を、第1回(6月28日)から第6回(11月22日)までに受講した、当院の患者14名について検討いたしました。

受講者の年齢は60～78歳(平均66.9歳)、男性3名、女性11名でした。受講回数は全6回出席が1名、5回が4名、4回が5名、3回が1名、2回が1名、1回が2名でした。

受講前後の体重変化は、明らかな“体重減少”が8名、“増加”が2名、“不变”が4名でした。“体重が減少”した8名のうち7名は4回以上受講しており(残り1名は3回)、“体重増加”、“不变”的6名のうち3名は受講回数が2回以下でした。

受講前後のHbA1cは、明らかな“低下”が9名、“増加”が4名、“不变”が1名で、HbA1cが“低下”した症例は全て4回以上受講しており、“増加”的4名は全て受講回数が3

回以下でした。

糖尿病教室への参加は殆どの受講者が「大変参考になった、勉強になった」と話しており、体重減少や HbA1c 改善多くの症例で見られ、当院にとどめても大いに有益であったと思います。

自院で糖尿病の十分な食事指導ができない場合、医師会館で行う「管理栄養士による栄養指導」を受けることは大変有意義であると思われますが、受講した結果、明らかな体重減少や HbA1c の改善が見られた症例は、6 回のうち 4 回以上受講した者（体重減少 87%、HbA1c 改善 100%）が多く、継続的に受講することが重要であると考えられました。

平成 25 年度の糖尿病教室は、内容に糖尿病の知識、合併症、運動療法についての講義を加え、集団栄養指導の他に、個別指導の枠を設け、より充実したカリキュラムを組んでいます。（別表参照）

先生方の医療機関等で、糖尿病診療についての十分な指導（食事、運動等）が行えない糖尿病患者さんには、医師会館での糖尿病教室への参加を勧めて頂きますようお願い申し上げます。

## 広報だより



### 花粉症

あきる野市 近藤医院 近藤之暢

新年度が始まりました。

4月は本来なら気候も良くなってくる時期で快適なはずですが

10 年程前からこの時期になるとアレルギー性鼻炎・結膜炎に悩まされることが多くなりました。調べてみたところ花粉とりわけ杉と檜に対するアレルギーでした。

毎年抗アレルギー剤を眠くならない程度に内服しております。幸い昨年はほとんど症状もなく過ごせましたが、今年は症状発現時からかなりつらい思いをしました。患者さんには「比較的弱い薬を症状発現の 2 週間位前から内服すると楽ですよ！」とは説明するものの自分は内服開始を忘れてします。今年は例年の数倍の杉花粉飛散（悲惨！？）が予想されていてどのように対処していくかと迷いました。結果としてはク〇〇チンの内服と広告等に出ていた顔にスプレーする化粧水のような H〇N〇ASUI、さらにクリス〇ル〇エールを鼻周辺に塗りマスクをするこ

とで快適な状態を保っています。

今年は花粉のみならず、PM 2.5 や PM 1.0 等の吸入すると後々身体に影響を及ぼす物質が多く飛散しているとのことです。我々医者は体内に入ってしまった有害物質が人体に何らかの症状をもたらさない様に薬を処方する程度しかできませんが、なるべくなら花粉症はなくとも有害物質を吸入しない方策を立てていくのがよいと考えます。

ちなみに先日来院された 20 歳代の女性は化粧をしていると症状が出にくいと言っていました。よくよく顔を拝見すると視野が保てるかと思う程のまつげ（マスカラ？つけまつげ？エクステ？）であり、鼻の周りも含め入念な化粧（薬の塗布と同じ？）をしていました。こんな方法は肌にも良く有害物質の吸入も少なく良いのかもしれません！！??

最近若い男性も化粧をすることがあるようですが私も化粧と同等のことをしているのかと思いました。

## 連載企画



## 東北道でどうでしょう？

瑞穂町 すずき瑞穂眼科 鈴木寿和

1/14成人の日、積雪のため首都圏の交通網が麻痺と言うニュースを知ったのは、友人家族と行った長野県のスキー場だった。朝から水気を多く含んだ雪が降っており、使い古したウェアに染み込み重く感じていた。そろそろ寿命かと考えながら、昼食のためロッヂに向かう。まだ早いせいかあまり混雑しておらず、窓際のテーブルで先に上がった妻達が手を挙げていた。ウエアを脱ぎながら近づくと「残念なお知らせがあります。」とスマートをこちらに向け笑っている。画面は見た事のない状態の渋滞情報マップだった。「あらら」と笑い返して椅子に座り、ブーツを緩めながらふと思う（これってまずくない？）。動きの止まった私を見てみんなも気付いたようだ。顔を合わせ、口を揃える。「どうする？」

中央道、長野道のほぼ全線、上信越道の富岡～長野間、関越道の練馬～本庄児玉間で通行止め。相談の結果、まず翌日仕事が休めない人間を長野駅まで送り、後は行ける所まで行ってだめなら泊まる事にした。ところが1時間半かけて駅に着いて考えが甘い事を思い知らされる。新幹線で東京まで行ってもそこからの交通手段が保障されないという事だった。駅に向かう間、湯沢、軽井沢、小海にそれぞれスキーに行っている知人と連絡を取り合うことができた。返答は湯沢「まだ滑っている」軽井沢「一般道で大渋滞」小海「中央道と上信越道どちらに向かうか悩んでいる」だった。この時点での最後まで動いていた東北道も通行止めになり、悪化している事を悟った。同行していた友人は峠道を使って渋川に向かうと言い出したが、私はあえて上信越道を北上し、日本海東北道、新潟から関越道に入り南下するコースを選択し、別行動をとる事にした。午後3時のことである。

上信越道は野尻湖に近づく辺りで1車線になるため多少のろのろしたもの、続く日本

海東北道は小雨程度でまったく積雪も無かつた。そのためストレスを解消するかのような走りであつさり長岡JCTより関越道に入った。その後もスムーズに進み、塩沢石打SAで夕食にした。お菓子と滋養強壮剤を購入し渋滞エリアに向かって午後7時に出発した。そのころ長野で別れた友人は浅間山の辺りで路肩に停まっている車を避けるのに苦労しながら夕食がとれそうな場所を探しており、軽井沢、湯沢組は合流して混雑している上里SAで通行止めが解除されるのを2時間待っていたが、一般道に下りるため動き出していた。通行止めになっている本庄児玉ICから解除を待つ車が2車線使って停車して上里までつながっており、一般道に出る車が外側の車線をゆっくり進んでいるとの事だった。小海組はあきらめて宿をとった様である。

順調に関越道を南下する私ですが、このまま進んでも高速から出る事すら間々ならず、出ても並行する一般道の混雑は明らかと考え、高崎JCTから東北道方面に逸れ、太田桐生ICから一般道に出た。国道407を南下し、我らが16号に抜けた。結局自宅に着いたのは日付が変わる直前だった。他の組も試行錯誤したようだが、結局進めた同コースをたどり1～2時間後には着いたようである。

さて、翌月2/11建国記念日、性懲りも無くまた長野のあるスキー場にいた。渋滞予測では午後3時から最大40kmだった。前日からの寒波で雪質は最高であったが、渋滞前に帰ろうと屋には上がる事にした。車に荷物を積み、いざ出發って時にエンジンがかからない！ディーラーに問い合わせると原因は軽油の凍結だと判り、レッカーと代車を用意するとの事だった。友人には先に出てもらい、例のごとく別行動となる。愛車が寂しそうに引かれていくのを見送り、出発できたのは2時間後だった。当然渋滞は始まっており、走つ

ても到着予想時刻が遅くなるという最悪のパターンに苛立ちを覚える。事故もあり予想より早く始まった渋滞に先行した友人も捕まつたとのことだった。上信越道を藤岡 JCT に近づくと関越道からの渋滞が上信越道の東京方面へ向かう右車線まで伸びている状態だった。その最後尾につき、慣れない代車のナビを見て目を疑う。到着予測時間が短縮されており、しかも左車線を指示していた。故障したのかと思い色々いじってみると、東北道を通るコースが選択されていた。なるほどと思い、1ヶ月前に通った道に向けハンドルをきる。東北道は渋滞どころか混雑も無く、あっさり首都高に入り西新宿 JCT から4号、中央道へと抜けた。なんと2時間前に出た友人

と到着は一緒と言う結果だった。

何のオチもない話をダラダラと書いてしまいましたが、言いたいことは“雪国キヤノンボール2連勝”ではなく、震災の影響か東北道は空いています。これから観光シーズンですので、利用してみてはいかがでしょう。あと、寒冷地の人には常識のようですが、軽油は凍結する事があります。軽油は数段階の規格があり、それぞれ適応温度が異なります。気候によって販売するものが変わるために、温暖地域で給油し、寒冷地に行くと今回の私のような事になるようです。最近クリーンディーゼルの人気が高いようなのでご注意を！と言う事です。

## 第 13 回西多摩医師会在宅医療連絡会報告



公衆衛生部長 川口 卓治

3月11日月曜日 午後7時30分 西多摩医師会館にて

司会 多摩リハビリテーション病院 伊藤尚真先生

### 1. 製品説明

ニュープロパッチ ドーパミン作動性パーキンソン病治療剤

### 2. 人口動態と在宅医療の未来予測

医療法人社団光輝会 社会福祉法人もくせい会 土屋光輝先生

明治の初めの日本の人口3300万人は、2004年12月に12784万人のピークをつけ、2100年には、4771万人になり明治の初期にもどる見込みである。

高齢化人口も、40パーセントを超えてくる。単独世帯4割になる。若い労働力は減少し、高齢者は増加し、介護の質の低下が心配される。外国人の介護力の必要性が強く考えられる。

### 3. 今後の計画について

西多摩医師会在宅医療委員会で、方針を検討していく。

療養型病院にアンケートを行う。

### 4. 次回の予定

4月8日 月曜日 午後7時30分 西多摩医師会館にて

司会、東青梅診療所 川口 卓治先生

〈1〉 座談会 在宅医療をどう広げていくか。

在宅医療の保険点数は、煩雑で分かりづらい。どこがポイントか。

在宅療養支援診療所に参加するネックはなにか。解決策は？

協力してやれるることは何か。

など討論したいと思います。

〈2〉 その他

## 西多摩地域糖尿病医療連携検討会からのメッセージ



西多摩地域糖尿病医療連携検討会 野本 正嗣

会員の先生方には平素より当検討会の活動にご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。今回は平成25年度の取り組みについてご紹介いたします。

### (1) 「西多摩医師会館における糖尿病教室」の開催

- 平成24年6月より開始した糖尿病栄養指導教室をバージョンアップして月1回開催いたします。
- ・毎月（8月・12月を除く）第4木曜日午後2時～3時 於：西多摩医師会館
  - ・前半30分は糖尿病の知識、合併症について、運動療法など。後半30分は集団栄養指導教室をそれぞれ月替りの内容で行います。（年間スケジュールは別紙をご参照下さい）
  - ・糖尿病教室終了後「個別栄養相談」も行います。個別相談は午後3時～3時30分（1人につき15分）で完全予約制です。

#### （検討会からのお願い）

- ◎貴院の患者さんに糖尿病教室の受講を勧奨して下さい。どの月から受講されても結構です。継続して受講されることが望ましいのですが、患者さんの聴講したい内容のみでも結構です。申し込みは医師会事務局まで（予約なしでも受講できます）
- ◎4月のレセプト提出時に渡される袋詰に①糖尿病教室のポスター、②年間スケジュール表を同封いたします。待合室への掲示をお願いいたします。
- ◎個別栄養相談を希望する、または必要とする患者さんをご紹介下さい。栄養相談報告書を先生と患者さんにお渡しいたします。完全予約制ですので、予め医師会事務局までお申し込み下さい。

### (2) 「糖尿病教室 in あきる野・日の出・檜原」の開催

あきる野、日の出、檜原地区の糖尿病患者さんとそのご家族を対象に、コンパクトにまとめた内容の濃い糖尿病教室を開催いたします。

- ・日時：平成25年6月15日（土）午後2時～5時
- ・場所：公立阿伎留医療センター地下1階講堂

#### （検討会からのお願い）

- ◎あきる野、日の出、檜原地区の先生方は、患者さんに糖尿病教室への参加を勧奨して下さい。
- ◎あきる野、日の出、檜原地区の先生方にポスターを配布いたします（4月のレセプト提出時に渡される袋詰にて）ので、待合室等に掲示をお願いいたします。

### (3) 「糖尿病教室 in 福生・羽村・瑞穂」の開催

福生・羽村・瑞穂地区の糖尿病患者さんとそのご家族を対象に、コンパクトにまとめた内容の濃い糖尿病教室を開催いたします。

- ・日時：平成25年10月の土曜日予定 午後2時～5時
- ・場所：公立福生病院1階多目的ホール

#### （検討会からのお願い）

- ◎福生・羽村・瑞穂地区の先生方は、患者さんに糖尿病教室への参加を勧奨して下さい。
- ◎福生・羽村・瑞穂地区の先生方にポスターを配布いたします（9月頃を予定）ので、待合室等に掲示をお願いいたします。

#### (4) 「糖尿病医療連携リスト」の作成

平成 23 年度、平成 24 年度に実施したアンケート結果を見て連携リストを作成し、できるだけ早い時期に配布いたしますのでご活用下さい。

##### (検討会からのお願い)

リスト作成にあたり内容に誤りがないかどうかをご確認いただきます。4月上旬を目処に各先生方に情報の再確認、訂正をお願いする予定です。改めて資料をお送りいたしますので、ご校閲の程よろしくお願ひ申し上げます。

#### (5) 「糖尿病連携手帳を基本としたパスノート」の作成

糖尿病連携手帳（既存のもの）に追加する形のパスノートを作成し、医師会事務局に在庫いたします。在庫準備が整い次第改めてご連絡させていただきますので、パスノートをご入用の先生は必要部数を事務局までご請求下さい。

#### (6) 「糖尿病セミナー —— 症例から学ぶ糖尿病診療 ——」の開催

第5回セミナーを平成 25 年 7 月に公立福生病院で、第6回セミナーを平成 26 年 3 月に公立阿伎留医療センターで開催いたします。日程が決定いたら改めてご連絡いたしますので、多くの先生方のご参加をお願い申し上げます。

当検討会へのご意見・ご要望等がございましたら、野本医院 (TEL 0428-31-7155) までご連絡下さい。先生方のご要望を取り入れ、当地域でのより充実した糖尿病医療連携の構築を目指していきたいと思います。本年度もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

### 2013 年度糖尿病教室

毎月第 4 木曜日 午後 2 時～3 時 場所：西多摩医師会館

	14:00～14:30 (集団)	14:30～15:00 (集団)	15:00～15:30 (個別)
4月	糖尿病とは その1 (医)	糖尿病の食事入門 －はじめてのあなたでも大丈夫－	栄養相談
5月	糖尿病の薬 (薬)	糖質のとり方について考えましょう	栄養相談
6月	糖尿病と眼や腎臓の合併症について (医)	タンパク質のとり方について考えましょう	栄養相談
7月	糖尿病の運動療法について その1 (ト)	脂肪のとり方について考えましょう	栄養相談
8月	休み	休み	
9月	糖尿病とは その2 (医)	献立の立て方上手になります	栄養相談
10月	糖尿病と歯や歯周病について (歯科医)	糖尿病食を食べてみましょう (試食会)	栄養相談
11月	糖尿病と足ケア (神経障害) について (看)	外食・行事食について考えましょう	栄養相談
12月	休み	休み	
1月	糖尿病とは その3 (医)	上手に減量しましょう	栄養相談
2月	糖尿病の運動療法について その2 (ト)	上手に減塩しましょう	栄養相談
3月	まとめ (Q&A を含めて) (医)	まとめ 一質問に答えてー	栄養相談

(医)：医師、(ト)：トレーナー、(薬)：薬剤師、(看)：看護師

## 学術講演会の予定 [学術部]

開催日	開始～終了時間 開催時間	会 場	単 位 数	カリキュラム コード	集会名称・演題	講師（役職・氏名）
4. 22 (月)	19:30 ~ 21:00	公立福生病院 多目的ホール	15	4, 7, 8	学術講演会 「勤務医から見た医療 訴訟」(仮)	東京医科大学八王子医療 センター 消化器内科 准教授 角谷 宏先生
4. 25 (木)	19:30 ~ 21:15	青梅市立 総合病院 南棟 3 階講堂	15	1, 32, 78	学術講演会 「心房細動と抗血栓 療法 up to date」 (仮題)	順天堂大学医学部 脳神経外科 准教授 田中 亮太先生

## 「東京都医師会雑誌平成25年8月号(銷夏隨想集)」原稿募集

東京都医師会雑誌8月号は例年「銷夏隨想集」として都医師会員の先生方が執筆された隨想及び写真などを掲載しています。別項のような応募規定がありますが、当医師会所属で東京都医師会員の先生方の作品を募集いたします。

なお、医師会1地区あたり応募件数は3件までとなっております。応募多数の場合は、応募した各先生方と協議の上選出させていただきます。

詳細につきましては、西多摩医師会事務局までお問い合わせ下さい。

## 東京都医師会雑誌 平成25年銷夏隨想集 応募規定

## ◇随想、随筆、紀行文について

- ・文字数は、原則として1,500字以内でお願いします。
- ・内容については、政治や宗教を離れたものにして下さい。
- ・漢字、仮名ともに現代用語を使用し、差別的表現は一切使用しないようご配慮下さい。
- ・原稿に付随する写真は1枚までとします。(印刷はモノトーンとなります)

## ◇俳句、短歌、川柳について

- ・お一人、いずれか5首、5句以内でお願いします。

## ◇絵画、書、写真等について

- ・お一人、いずれか1点として下さい。
- ・キャビネ判以下のサイズの写真にてご提出下さい。
- ・掲載サイズは原則、都医雑誌半頁分(10×15cm)以内となります。

## ◇応募資格

東京都医師会会員であること。

## ◇申込方法

所属の地区医師会を通じてお申し込み下さい。

なお、東京都医師会の締切日は平成25年5月7日(火)です。

## ◇東京都医師会ホームページについて

今後、東京都医師会雑誌に掲載した内容を本会ホームページに掲載する予定であります。別紙「東京都医師会ホームページ掲載についての承諾書」をご記入の上、原稿等と併せてご提出下さい。

## ◇その他

- ・原稿の採用、不採用及び記述の訂正等は本会編集委員会が行います。
- ・投稿原稿、写真等はご返却いたしかねますのでご了承下さい。

## 一般社団法人移行に伴う説明会

一般社団法人移行に伴う説明会が行われました。

2月22日は私立病院を対象に、3月5日は公立病院（青梅市立総合病院・福生病院・阿伎留医療センター・奥多摩病院）を対象に、3月8日はA会員を対象に行われました。

### 理事会報告

### ★ Information

2月定例理事会

平成25年2月12日(火)

西多摩医師会館

[出席者：横田・鹿児島・野本・蓼沼・江本・川口・宮城・近藤・岩尾・小林・西成田・安部・奥村・大堀・中野]

#### 【1】報告事項

##### 1. 各部報告

- 総務部 2月2日開催された「西多摩地域医療懇話会について  
会館建設業者の選定結果について
- 地域医療部 2月7日に開催された第1回「西多摩認知症医療連携委員会」について
- 病院部 2月6日に開催された「平成24年度地区医師会救急担当理事・東京都指定  
二次救急医療機関代表者合同連絡会」の概要について
- 公衆衛生部 2月4日に西多摩保健所にて開催された難病対策に係る会議の内容について
- 100周年記念式典準備委員会 2月6日の委員会は雪のため中止  
内規に基づく表彰者の選定の準備について

##### 2. 地区会報告（各地区理事）

- 青梅市 1月30日青梅市の幹部との懇談会
- 福生市 2月5日理事会を開催  
3月11日に総会予定
- 羽村市
- あきる野市
- 瑞穂町
- 日の出町 2月1日地区医師会を開催

##### 3. その他報告

- 東京都医師会第17回救急委員会（1月21日 小山 英樹 委員）  
高齢社会における救急医療体制について  
東日本大震災の経験をふまえた東京都の災害医療体制について

東京都医師会第16回地域福祉委員会(1月24日 進藤 晃 委員)

「超高齢社会における東京の地域包括ケアの在り方について」

— 2025年を見据えて —

東京都医師会第16回勤務医委員会(2月4日 進藤 晃 委員)

勤務医負担軽減の具体策について — 「勤務医の労働環境の問題点と改善策」及び  
「患者対応の問題点と改善策について」のアンケート結果も踏まえて —

## 【2】報告承認事項

1. 入・退会会員、会員変更について — 承認 —
2. 東京都立青峰学園学校精神科医の推薦について  
　　適任者がおらず資料回答案の通り推薦できない旨の回答をすることが承認された
3. ミニ「医療講演会」=肝臓病編=(西多摩地区肝友会)の後援依頼について — 承認 —

## 【3】協議事項

1. 平成25年度あきる野市小・中学校医(内科医 精神科医)の推薦について(依頼)  
　　— 可決承認 —
2. 平成25年度瑞穂町学校医について(依頼)  
　　— 可決承認 —
3. 平成25年度瑞穂町学校眼科医について(依頼)  
　　— 可決承認 —
4. 平成25年度日の出町立小・中学校医の推薦について  
　　表記推薦依頼に対し、平井小学校の湯川文朗先生を神尾重則先生に変更、  
　　その他は平成24年度と同様の医師とすることが提案され可決された
5. 平成25年度檜原村小・中学校耳鼻咽喉科及び眼科検診の承諾について — 可決承認 —
6. 市立保育園園医の推薦について  
　　— 可決承認 —

## 【4】その他

総務担当理事より

3月の定時総会は、会場の都合により3月29日に変更になった

総会前に行っていた講演会は、過去の開催趣旨等を勘案し、行わないとすることが提案され承認された

**2月定例理事会**

**平成25年2月26日(火)**

**西多摩医師会館**

[出席者:横田・鹿児島・野本・蓼沼・江本・川口・宮城・近藤・小林・西成田・朱膳寺・安部・奥村・大堀・中野]

## 【1】報告事項

### (1) 都医地区医師会長連絡協議会

#### 1. 都医からの伝達事項

1. 平成24年度在宅難病患者訪問診療事業地区医師会別実施報告(第3四半期分)について

2. 平成 24 年度東京都医師会認知症サポート医・かかりつけ医フォローアップ研修  
—認知症の人と家族を支えるための地域連携—の開催について
3. 平成 24 年度医事紛争事件概況の報告について
4. 「日本医師会年金制度説明会地区医師会担当理事連絡会」開催について

## 2. 地区医師会からの報告

1. 中央ブロック (当番: 小石川医師会)
2. 城東ブロック (当番: 江東区医師会)
  - ①公益法人への移行と医師会の名称変更について (すみだ医師会)
  - ②江戸川区医師会における特定健診・特定保健指導（国保健診）迅速化の試みについて (江戸川区医師会)
3. 城西ブロック (当番: 目黒区医師会)
  - ①学術講演集発刊について (中野区医師会)
  - ②子供未来とうきょうメッセ 2013への出展について (中野区医師会)
  - ③東日本大震災復興支援について (中野区医師会)
4. 城南ブロック (当番: 蒲田医師会)
5. 城北ブロック (当番: 練馬区医師会)
6. 多摩ブロック (当番: 西多摩医師会)
7. 大学ブロック (当番: 東京医科歯科大学医師会)

## 3. 出席者による意見交換

### 行事予定

1. 4月の地区医師会長連絡協議会  
日時: 平成 25 年 4 月 19 日 (金) 午後 2 時～  
場所: 東京都医師会館
2. 5月の地区医師会長連絡協議会  
日時: 平成 25 年 5 月 17 日 (金) 午後 2 時～  
場所: 東京都医師会館
3. 第 279 回 (定時) 代議員会 (平成 24 年度決算・役員等選挙)  
日時: 平成 25 年 6 月 16 日 (日) 午前 10 時～ (予定)  
場所: ベルサール飯田橋駅前

### (2) 各部報告

- ・総務部 一般社団法人移行に伴う会員資格・会費細則 (案) 等の説明会を開催、  
2月 22 日に私立病院を対象に実施、3月 5 日に公立病院・3月 8 日に  
A 会員に実施予定
- ・2月 23 日 (土) に開催された三師会主催の講演会の状況について

- ・病院部 2月15日開催された市民フォーラムの状況等について
- ・学術部 2月19日に開催された西多摩臨床報告会の状況について
- ・3月7日に青梅市立総合病院で予定されているパネルディスカッションについて

### (3) 地区会報告

- 青梅市 昨年と同様の内容で特定健診の契約を進めている  
福生市  
羽村市  
あきる野市  
瑞穂町 25年度より実施予定の特定健診結果のデータ化の準備の状況について  
日の出町

### (4) その他報告

東京都医師会第18回救急委員会  
(2月18日 小山 英樹 委員)

1. 会長諮問事項について
  1. 高齢社会における救急医療体制について
  2. 東日本大震災の経験を踏まえた東京都の災害医療体制について
  2. 救急医療体制のあり方検討委員会【中間のまとめ】について
  3. 東京消防庁救急相談センターについて
  4. その他
- (1) 「救急救命士の処置範囲に係る実証研究」の調査結果について

東京都医師会第16回健康スポーツ医学委員会

(2月14日 會澤 義之 委員)

1. 平成25年度健康スポーツ医学研修会開催について  
第23回 平成25年5月11日(土)午後3時～東京医科大学病院
  - ・健康スポーツ医が知っておくべきドーピング防止情報
  - ・スポーツ現場・職場における応急処置と実習(実技)
2. 諮問について(平成23年8月諮問)  
「健康スポーツ医が支援できる地区医師会活動」

## 【2】報告承認事項

- (1) 入・退会会員、会員変更について  
(2) 「西多摩在宅医療連絡会」について

— 承認 —  
— 承認 —

目的・会員・活動について報告され、この内容に基づき今後の運営を進める  
ことについて

### 【3】協議事項

(1) 平成 25・26 年度東京都産業医（知事部局・水道局・下水道局・教育庁・東京消防庁）の推薦について（依頼） —— 可決承認 ——

湯川先生より辞任の申し出があった秋川消防署の産業医は、あきる野市医師会から推薦してもらう、その他の産業医については 24 年度の契約産業医を推薦することが提案され可決された

(2) 平成 25 年度西多摩地区市町村結核対策委員会委員の推薦について（依頼）

—— 可決承認 ——

委員会の開催が火曜日であり、学校医代表の成井委員の出席が困難との報告があり、成井委員に代わり笛本光信先生の承諾を得て推薦すること、その他については 24 年度と同様の先生を推薦することが提案され可決された

(3) 平成 25 年度西多摩医師会事業計画（案）について —— 繼続事案 ——

資料により事業計画（案）について説明があり、各理事に対し次回理事会までに担当部の計画（案）及び各事業に係る概算予算の検討が依頼された

(4) 新入会員年会費査定について

—— 可決承認 ——

資料により標記査定（案）が示され可決承認された

## 会員通知

- 会報
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 第 15 回青梅呼吸器懇話会（3/5）
- 一般社団法人移行に伴う説明会開催のご案内（3/8）
- パネルディスカッション 2013 ご案内（3/7）
- ソセゴン中毒と思われる患者の受診について（情報）
- 学術講演会（3/14）
- 第 13 回在宅医療連絡会（3/11）
- 平成 24 年度西多摩医師会第 2 回定期総会開催について
- 青梅市立総合病院より地域医療連携室からのお知らせとお願い—外科外来受診枠の変更について
- 公立阿伎留医療センター医局講演会（3/25）
- 第 11 回東京都医師会都民公開講座（3/23）「よい医療にめぐり合うために」
- 健康食品に関する安全性情報共有事業について（協力依頼）
- タバコ Q & A
- 武見敬三参議院議員を励ます会ご案内（4/10）
- 警視庁交通マナーチラシ
- 東京都ナースプラザ研修計画一覧表・研修計画
- やっぱり看護が好き Vol.57
- ミニ「医療講演会」肝臓病編（4/28）
- 西多摩歯科医師会公開講演会（3/14）
- 西多摩保健所だより
- 無理なくダイエットするために



# 医師会の動き

医療機関数	213	病院	30
		医院・診療所	183
会員数	554	A会員	203
		B会員	351

## 会議

- 3月5日 4公立病院長との懇談会  
 6日 総務会  
 8日 一般社団法人移行に伴う説明会  
 11日 第13回在宅医療連絡会  
 12日 定例理事会  
 14日 第5回西多摩地域糖尿病医療連携検討会  
 19日 産業保健センター運営協議会  
 21日 西多摩医師会災害医療対策委員会（仮称）－設立準備会議－  
 22日 会報編集委員会  
 26日 第4回西多摩地域脳卒中医療連携検討会  
 26日 定例理事会  
 29日 平成24年度西多摩医師会第2回定時総会

## 講演会・その他

- 3月7日 保険整備委員会  
 7日 西多摩パネルディスカッション  
 2013『認知症の地域医療連携』  
 【認知症の連携について】それぞれの立場から  
 『西多摩地域における認知症医療連携の現状と今後の課題－アンケート結果－』  
 梅郷診療所 江本 浩先生  
 『円滑な認知症の地域医療連携のために あきる野市専門員相談会に参加して』  
 秋川病院 精神科  
 植田 宏樹先生  
 『認知症の施設入居者が教えてくれた地域連携の大切さ  
 －地域連携が上手くいくということ－』

青梅市立総合病院 神経内科

高橋 真冬先生

『地域からみた課題』

青梅市地域包括支援センター

すえひろ センター長

水村美穂子様

『認知症家族の会』からみた認知症の地域医療連携』

認知症家族の会・青梅ネット

代表 長谷川 正様

9日 糖尿病市民健康講座

『血糖値を上げないために何ができるか』

東京医科大学 教授

植木 彰夫先生

15日 第4回糖尿病セミナー

『症例から学ぶ糖尿病診療』

①「低血糖発作と過食を繰り返し、血糖コントロールに難渋した症例」

公立阿伎留医療センター副院長  
 西成田 進先生

②「糖尿病患者さんの歯肉の変化  
 －症例を通して－」

吉成歯科医院院長

吉成 勝海先生

③「急激に血糖コントロールが悪化したら？」

柳田医院院長

柳田 和弘先生

21日 法律相談

28日 糖尿病教室

## 役員出張

- 3月9日 多摩ブロック医師会長婦人同伴懇親会  
 15日 東京都医師会地区医師会長連絡協議会  
 多摩ブロック医師会長連絡協議会  
 28日 東京都医師会第278回代議員会

【入会会員】

氏名 高梨 博文  
勤務先 (医社) 利定会 大久野病院  
出身校大学 東京医科大学  
昭和60年3月卒

### 【所在地变更】

(医社) 七つ星 ななスキンケア皮膚科  
クリニック  
(新) 日の出町平井216-11  
(旧) あきる野市秋川2-18-18  
オーエスピル2





長いこと通院している患者さんから帰りがけに足を引きずりながら、「歳はとりたくないねエ……」というつぶやきともなげきとも取れる言葉を聞くことがある。「そーだねエ」となかば上の空で頷きつつも、次のカルテを取るために手が勝手に伸びてゆく。別に感心しているわけでもないし、ないがしろにしている訳でもない。患者さんもこちらが同調するから話してくれるのかとも思う。

そういうえば最近、背中が首がやけに痛いし、左肩も妙に痛みが走る。やはり同じ姿勢を強いられるためかなあ?などとつい10年先の自分の境遇を考えてしまうが、筋肉痛ならまだましかく今までではそれなりに安堵していた。

ところで、今日の新聞に「脳卒中の確率自分で算出」というタイトルで記事が大きく採りあげられていた。「貴方の血管年齢が簡単な計算でわかる」そうだ。項目には年齢、性別、喫煙の有無、肥満度（BMI）、糖尿の有無、血圧（服薬の有無で点数が決まる）が挙げられている。それならすぐ計算できるじゃないか、と期待と不安が混じった思いで点数計算をしてみた。結果は、こりやまずい。実年齢よりも10歳くらいも上回っているではないか！年齢を1歳サバ読むとそして血圧を5位下回ると、計算上血管年齢は5歳くらい若返ることが分かった。対象となった人数は1万5千余、観察期間は14年にも達する

ので、立派な統計なんだろう。今まででは聞き流しながら「血管の病気は万病のもとだよ」なんて人には言っていたがやはり現実は甘くないようだ。

私の家には17歳のダックス犬がいて、毎晩玄関で主人の帰りを待つのが彼の習慣であった。17歳といえば人間では93歳に相当する。奴っこさんの血管年齢は超高齢ながら、さぞかし若いだろうとかねてから思っていた。この一週間のことであるが、ぐったりと元気がなく、腹痛（おそらく）と吐き気に苦しみ抜いて寝てばかりいた。痛さでうろうろとさまよう姿は、高齢犬が死に場所を探しているようにも思われた。今に至るまで、食べることと出迎えだけが生きがいだったろうにと思うとかわいそうだが、点滴が必要だろうと動物病院へ出向いた。もとより、胆石症とクッシング病のため投薬していたのだが、あまりにつらそうなので先方の獣医師に頼んで入院させてもらった。

残念ながら、看病の甲斐なく最後はペット病院の檻で息を引き取ってしまった。冷えた愛犬の毛並をなでながら、自らの血管年齢の見当が付き「万病」の行く末が分かった以上、これからはもっと親身になって患者さんのつぶやきも聞いてやらなければ、またサプリの相談をする人にも耳を傾けようと思った。

(あとがきにしては長くなつてすみません。)

青梅市 鹿児島 武志

## 表紙のことば



## 『八重の梅』

吉野梅郷の梅の木にウイルス感染が拡がり、一昨年から一万本もの梅が伐採され梅郷

の景観も変わったのではないでしょか。以前訪れたとき梅林の山腹に咲き始めた可憐な梅一輪を見つけました。紅八重の一種だそうです。

青梅市健康センター 坂本保己

## お知らせ

事務局より お 知 ら せ

平成25年5月(4月診療分) の

保 険 請 求 書 類 提 出

**5月8日(水)**

—— 正午迄です ——

## 法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克巳先生による法律相談を  
毎月**第3木曜日**午後2時より実施いたします。  
お気軽にご相談ください。

◎相談日 4月18日(木)

5月16日(木)

◎場所 西多摩医師会館和室

◎内容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・  
刑事に関するどのようなものでも結構です。

◎相談料 無料(但し相談を超える場合は別途)

◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。

(注)先生の都合で相談日を変更することもあります。

社団法人 西多摩医師会

平成25年4月1日発行

会長 横田卓史 〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 奥村 充

近藤 之暢 鹿児島武志 鈴木 寿和 馬場 真澄 菊池 孝

土田 大介 渡邊 哲哉 松崎 潤 湯田 淳 進藤 幸雄

松本 学

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

診療所向け電子カルテシステム



BMLには誇りと実績があります。

★日本全国のお客様をサポートします。

★全診療科に対応します。

★多彩な入力ツールを用意します

★多くの連動システムに対応します

★オンライン請求に向けたレセ電算化に  
全国で対応可能です。



株式会社**ビー・エム・エル**  
埼玉第三営業所  
TEL:049-232-0111



FOR QUALITY OF LIFE  
SINCE 1955

臨床検査のフロンティア  
保健科学研究所は  
21世紀の医療と健康を  
バックアップします



株式会社**保健科学研究所**

●本社 〒240-0005 横浜市保土ヶ谷区神戸町106 045-333-1661 (大代表)